

兵庫県保険医協会 国際部 市民公開企画

映画「医学生 ガザへ行く」上映会&トーク企画

日時 10月13日(日) 14:00~16:00

参加費 500円

会場 兵庫県農業会館 11階大ホール

※学生は無料

(神戸市中央区海岸通1、兵庫県保険医協会の東隣のビル。JR・阪神元町駅から南へ徒歩7分)(裏面に地図)

ARPA FILMS PRESENTS

ERASMUS IN GAZA

医学生 ガザへ行く

A FILM BY CHIARA AVESANI & MATTEO DELBÒ

AN ARPA FILMS PRODUCTION in collaboration with EFFE TV, in cooperation with ICAJazeera, with financing from ICAA Directors Chiara Avesani, Matteo Delbò Screenwriter Chiara Avesani Cinematographer Matteo Delbò
Additional camera operators Chiara Avesani, Luigi Ceccon, Mohamed J Abu Safia Location sound director Chiara Avesani Editing consultant Tom Ernst, Joan Ubeda Editor Antonio Labbro Francia Additional editing Michele Stocco
Original score Michele Stocco, Mirko Carchen, Iessandro Grosso Additional music Los Cominos, Leandrinho, Sheila 3 Leyla, Vinmusic, Artist An director DBOND Colour corrector Lara Vitanova Drone shots 24 Media Al Hassan Seimi
Sound design and mix BITLAB-Zavi Saucedo Transcriptions and translations Sandra Bigliani, Patricia Todolí Zeki, Baba Moudem, Mazed Khalilla English version subtitles Jolry Castellano Rodriguez Logo advisor Bianca Barba
Archival footage INA, RUPTLY TV, Ezz Almarsharawy Archive film researcher Marta Torres Producer Eva Fontanals Production directors Eva Fontanals, Lola Pedrés Production assistants Julieta Balasch, Julia Membrive

監督：チアラ・アヴェザニ、マッテオ・デルボ

配給：ユナイテッドピープル 88分/スペイン/2021年/ドキュメンタリー ©2021 Arpa Films

15:30~ トーク企画

猫塚 義夫 先生

(北海道パレスチナ医療奉仕団団長、勤医協札幌病院)

植村 和平 先生

(奥尻町国民健康保険病院総合診療科 医長)

「北海道パレスチナ医療奉仕団」の団長として10年以上にわたりパレスチナでの医療支援を行いながら、ガザ・パレスチナの状況を日本の人々に発信し続けている猫塚医師と、2022年、専攻医の時に「奉仕団」のメンバーとしてガザで医療支援を行った植村医師をオンラインでお招きしたトーク企画を行います。お二人がパレスチナで経験したことやガザの現状などについてお話しいただき、日本にいる私たちがすべきことについて参加者の皆さんと一緒に考えたいと思います。

命を救う医師になる

監督：チアラ・アヴェザニ、マッテオ・デルボ 出演：リッカルド・コッラディーニ、サアディ・イェヒア・ナクハラ 制作：アルパ・フィルムズ・プロダクション

原題：Erasmus in Gaza

配給：ユナイテッドピープル 88分/スペイン/2021年/ドキュメンタリー © 2021 Arpa Films

救急外科医になる夢を叶えるために
ガザ地区に留学したイタリア人医学生の
葛藤や成長を描くドキュメンタリー



【映画概要】

救急外科医を目指し欧州から初の留学生としてガザへ

イタリア人医学生のリッカルドは、奨学金を得て留学することを決意した。行き先は紛争地域であるガザ地区。友人たちは彼の安全を心配し、動揺を隠せない。しかし将来は救急外科医になりたいと考え、爆発性弾丸による外傷についての論文を書いている彼にとってのガザ行きは、医師となるための実践経験になる。周囲をフェンスで封鎖された「天井のない監獄」と呼ばれるガザに入るのは容易ではない。イスラエル、パレスチナ自治政府、そしてハマスの3つの異なる当局からの許可を得なければならないからだ。極めて複雑なプロセスを経て、欧州から初の留学生としてガザ・イスラム大学に到着すると、学長に歓迎され、ガザ内外のメディアから次々とインタビューを受けることになる。

緊迫する医療現場で医師となる決意を固めていく

多くの期待と注目を集める彼はプレッシャーを感じ始める。救急医療の現場に入り、本当に外科医に向いているのかと自らに問うなど、不安やストレスに潰されそうになる。悩むリッカルドを救ったのは、同じく医師を目指す医大生サアディなどのパレスチナ人の若者たちだった。やがて片言のアラビア語を話す彼は現地で人気者となり、徐々に自分の居場所を見つけていく。しかし、イスラエルとの紛争が再燃すると、リッカルドは難しい選択を迫られる。安全のためガザを一時的に離れた彼は、ガザを出られない友人達に心配を募らせる。しばらくしてガザに戻り、無事だった仲間との再会を喜び、絆を深めていく。そしてすぐに、緊迫する救急医療の現場へと飛び込み、傷ついた人々の治療に当たっていく。至近距離で爆撃を受ける体験をしながらも、彼は救急外科医になる決意を固めていく。

猫塚 義夫 先生

1973年、札幌医科大学卒業後、北海道勤労者医療協会に入職。以後、米国留学を含め脊椎外科と膝関節外科を中心とする整形外科医として診療と臨床研究を進めてきた。同時に学生時代から抱いてきた社会進歩への志を実践した。障害者へのボランティア活動に始まり、「医療9条の会・北海道」幹事長(現、共同代表)となりつつ、2010年に「北海道パレスチナ医療奉仕団」を立ち上げ、団長として、パレスチナでの医療支援や現地からの発信を続けている。

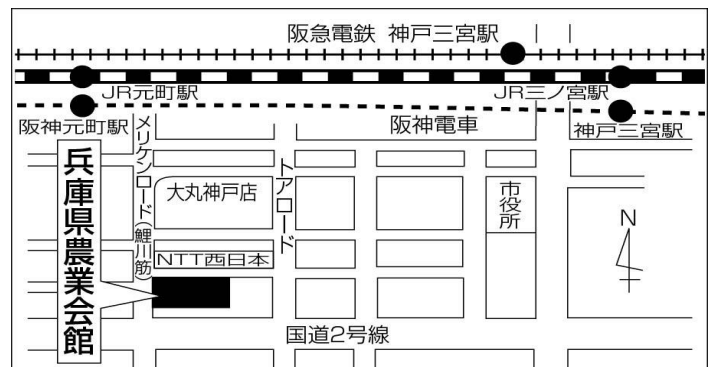
植村 和平 先生

2017年、自治医科大学医学部卒業。初期研修を北海道の砂川市立病院で行い、北米型ERを学ぶ。研修医時代に自分の専門領域を探している中でエコーの将来性に気付き、生涯の専門領域にしようと考えた。北海道家庭医療学センターの総合診療専門医コース専攻医として北海道のへき地で診療に従事。若手ながら「エコー×総合診療」をテーマに執筆や講演、ハンズオンセミナー開催、企業コラボなどを精力的に行っている。現在は北海道の南の離島、奥尻島からエコーを発信している。

参加申込方法

Google フォームからのお申し込みは
下記 URL または右 QR コードからご登録ください

<https://tinyurl.com/2s39vs3b>



会場地図

FAXでのお申込みは下記にご記入の上、
078-393-1820に送信してください。

団体名 (あれば)		TEL番号	()
お名前		合計	() 人予定

※どなたでもご参加いただけます 事前お申込みなしでも参加可能ですが、予約で定員に達した場合お断りする場合があります。お問合せ、お申込みは(TEL078-393-1807)担当事務局:有本・平田まで